

スリランカ・ケラニヤ便り ① ケラニヤ大学へ日本語教師として赴任

為我井 輝忠 (ケラニヤ大学人文学部現代外国語学科・日本語教師)

12月3日あわただしくスリランカへ出発した。前日‘わんりい’のイベント^註が終了し、十分休む時間もなく出発したせいか、冬の寒さから一気に熱帯の季節に移動して大変戸惑いを覚えた。9時間ほどの飛行時間を経て、バンダラナヤカ国際空港に到着。空港ロビーでは大学関係者の出迎えを受け、予約していただいたホテルへ早速直行した。

翌日は再度大学の方々の案内で家探しを始めたが、あらかじめ3軒の家を見つけておいてくれたようで、順々に見て回った。1軒目は大きな家の2階部分を借りる形で、家具類はすべて整っていて、すぐにでも生活出来そうな状態である。2軒目と3軒目は家具が全然ない広い部屋だけのところで、これではあらゆるものを備えなければならないので、論外として1軒目の家を選んだ。

1軒目の家の持ち主にすぐ電話をしてもらい、借りたい旨を伝える。再度訪ねて話をした。持ち主は、Snil Kariyakarawana (スニル・カリヤカラワナ) という方で、ケラニヤ大学を卒業し、立教大学と一橋大学に留学した経験があり、また、ケラニヤ大学で教えたこともあるそうだ。現在はイギリスに在住し、この時期一時的にスリランカに帰国されているとのことだった。家賃は最初、月20000ルピー(16000円)との話だったが、少々高そうだったので16000ルピー(12000円)にしてもらい、その他電気代や水道代はこちらで払うと話し合った。契約に際し、当初64000ルピーを払ってほしいと言われ、これは家賃4カ月分を前払いで払うのかと思って支払ったところ、後日分かったのだが、実は保証金のことだった。ここを出る時に全額返すとのことだ。一応何とか話しも付き、荷物を運び入れ、やつと安堵した。

1日置いて授業を開始した。私の担当時間は週9時間で、水曜日と日曜日は休みである。

1時間60分で、朝8時から始まり夕方5時に終わる。時間毎の休憩時間はなく、しかも昼休みもない。授業



スリランカ滞在中の私の住居

が全部連続して続く。私の場合は、少ない日は1日に1時間の授業だけの時もあり、あとは2時間ないしは3時間の日もある。午前中で終わる日があれば午後からの日もある。それはまちまちで、当初は毎日確認しながら出かけるようにした。私以外に日本人の教師は二人おり、一人は40代の男性、もう一人はスリランカ在住歴10年以上の女性である。スリランカ人の教師は4人いる。皆若い人ばかりで、恐らく20代後半から30代にかけての女性である。

学生たちはと言うと、日本と同様語学関係の学部・学科は圧倒的に女子学生が占め、男子学生は各学年に2人いるかどうかである。学部は3年までで、その上に大学院がある。各学年とも学生数は50人程であるが、常時出席しているのは3分の1位であろう。かつて教えたことのある中国の学生たちと比べると、熱心さと言う点ではやはりスリランカの学生の方が勉強していると感じる。ただ出席率はあまり良くない。たまに学生の方から〇〇の理由で授業は休みにしてほしいというような要求があったりして、驚いた。

私が担当している科目は、「漢字」(4時間)、「日本文化」(1時間)、「会話」(2時間)、「日本文学」(2時間)の計9時間である。移動もあるので1コマの授業は実質50分程度になってしまう。日本語関係の授業として他に「聴解」、「作文」、「言語学」、「日本語教授法」な

どがあり、これらは他の先生が教えている。

学生たちは大学に入るためにAレベルの資格を取っていて、そのために全員と言っていいくらいAレベルの条件である日本語も勉強してきて、ほぼ5年以上は取り組んでいる。学生に尋ねると、一番難しいのは漢字だそうで、彼らが書いている漢字を見ていると、確かに文字と言うよりは記号と言った方がよいかもしいれない。「漢字」の授業に関してはテキストを利用している。音読み・訓読みの区別を説明したりすることもあり、なかなか大変である。他の授業はテキストを用いず、私の裁量で自由に行っている。ただ、「文学」は『源氏物語』、『平家物語』、『枕草紙』、『徒然草』、『今昔物語』をやってほしいとのことで、もちろん原文では難しすぎるのでほぼ現代風になったものを、その有名な箇所だけ講読している。例えば、『源氏物語』は、冒頭の「何れの御時にか。女御、更衣あまたさぶらひ給ひけるなか、いとやんごとなき際にはあらぬが優れて時めき給ふありけり」から始まる、「桐壺の更衣の巻」を現代語訳で学ぶ。

この大学の特徴は、全ての学生は主科目として3科目を選択することになっている。人文学部系の場合、例えば日本語を学んでいる学生は、日本語以外に韓国語や中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語等の外国語から一つと、さらに観光学とかビジネス英語、言語学、シンハラ語、ヒンディ語といった専門科目の中から(実際はもっとある)一科目を選択する。学生にとってはなかなか大変そうである。日本語以外は他の外国語を学ばない学生もいる。恐らく他の教科で代用しているのかもしれない。

今は(1月31日現在) 期末試験の最中で、授業が1月12日に終わり、1週間自宅学習期間があった後、2月10日まで試験が続く。試験が終われば3月1日から新学期となる。ただし2012年度は学生と教職員双方のストライキがあったせいで、かなり日程が遅れているそうである。例年なら、12月中に授業と試験が終わり、1月からは学期休みに入っているようだ。1か月遅れているわけだ。

こんなふうにしてスリランカでの生活も2カ月が過ぎようとしている。いままでは旅行で何度も来ている

が、実際に現地で生活するとなるとなかなか大変である。観光旅行ならばいいホテルに滞在し、車で優雅に移動するような旅行をこれまではしてきたが、今は車を利用することなどはなくなり、日常生活ではすべてバスを利用している。少しずつ慣れてはきたが、まだ戸惑いを覚えることも多々ある。そんなことを次号で紹介してみたいと思う。

(続く)

註：『町田市「つながりひろがる地域支援事業」・つながろうひろがる地域の「輪」と「和」/聞いてみよう! 鶴川に住む留学生たちのスピーチ!! 楽しもう! 中国の民族音楽と歌』

ケラニア大学・風景

